

平成30年3月期 決算説明会

平成30年5月17日
(株)今仙電機製作所
東証1・名証1
証券コード 7266

www.imasen.co.jp

I . 平成30年3月期決算概要

百万円	前年同期実績 (H29年3月期)	当期実績 (H30年3月期)	増減額	増減率
売上高	110,275	117,339	7,064	6.4%
営業利益	2,670	3,281	611	22.9%
経常利益	2,047	3,400	1,353	66.1%
当期純利益	1,567	2,878	1,311	83.6%
1株当たり純利益	76.48円	139.21円	62.73	82.0%

POINT

北米では生産が減少したものの、国内、アジアでの生産増加により、増収増益となりました

ご参考

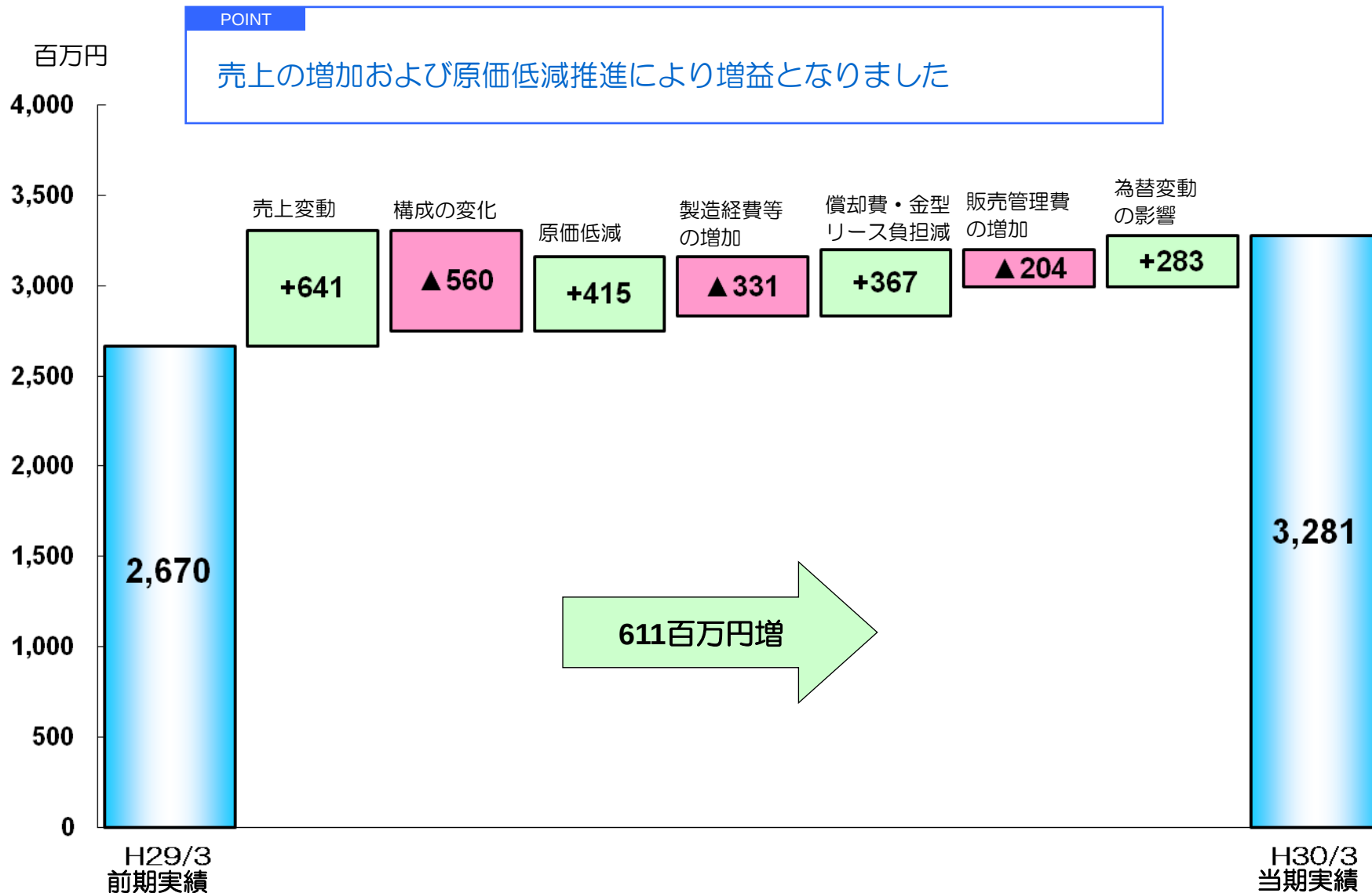
USD 30/3期 112.16円 29/3期 108.78円 3.38円の円安
 CNY 30/3期 16.62円 29/3期 16.36円 0.26円の円安
 THB 30/3期 3.31円 29/3期 3.08円 0.23円の円安

百万円	前期実績 (H29年3月期)	当期実績 (H30年3月期)		
			増減額	増減率
総 資 産	82,033	87,431	5,398	6.6%
純 資 産	46,335	50,817	4,482	9.7%
自 己 資 本 比 率	56.0%	57.7%	-	-
1 株 当 た り 純 資 産	2,239.53円	2,427.55円	188.02	8.4%

POINT

総資産は現金及び預金の増加や売掛債権の増加により、増加しております

4Q実績 前年同期比変動要因：営業利益

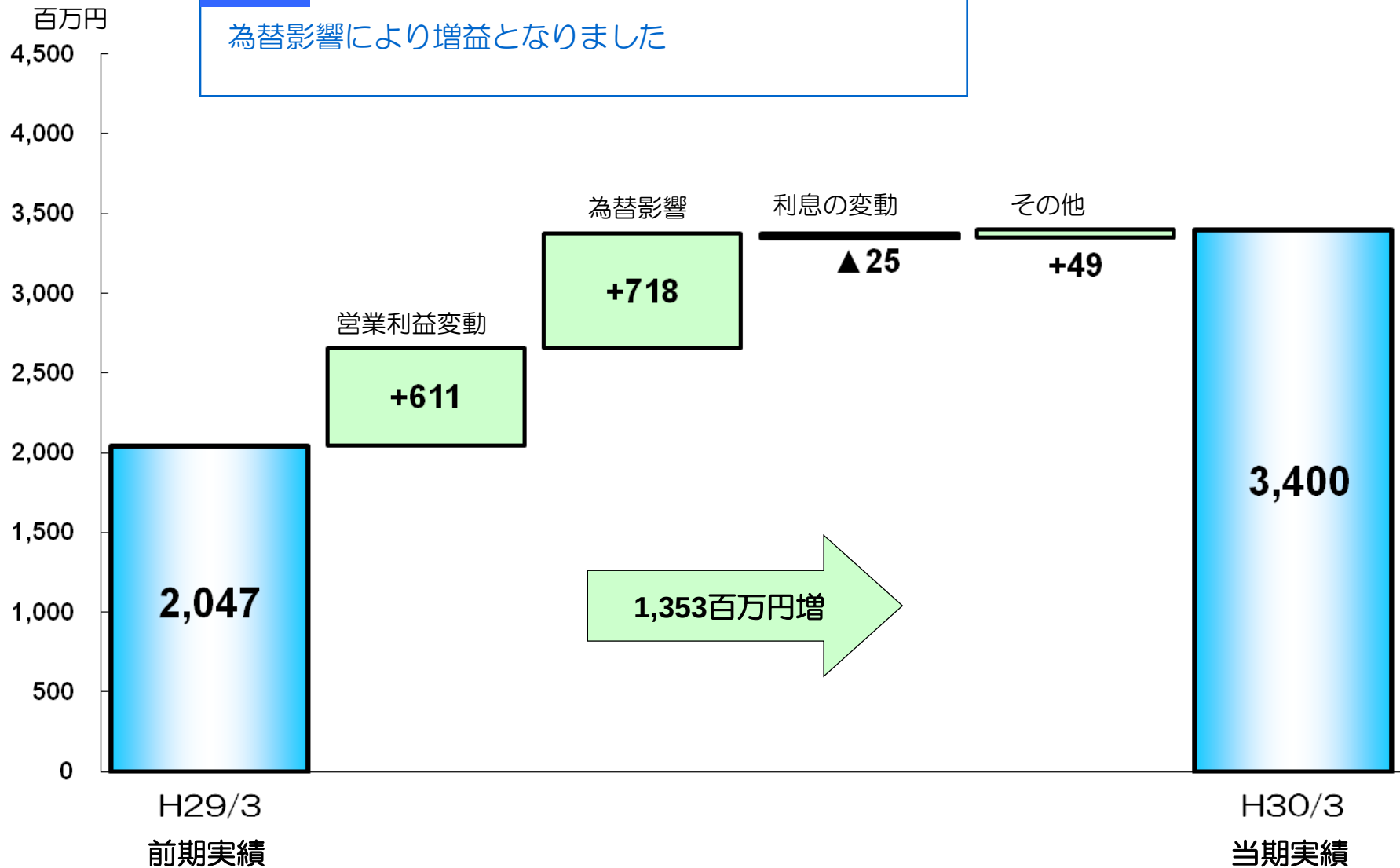


本資料の内容に関する一切の権利は(株)仙電機製作所に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

4Q実績 前年同期比変動要因：経常利益

POINT

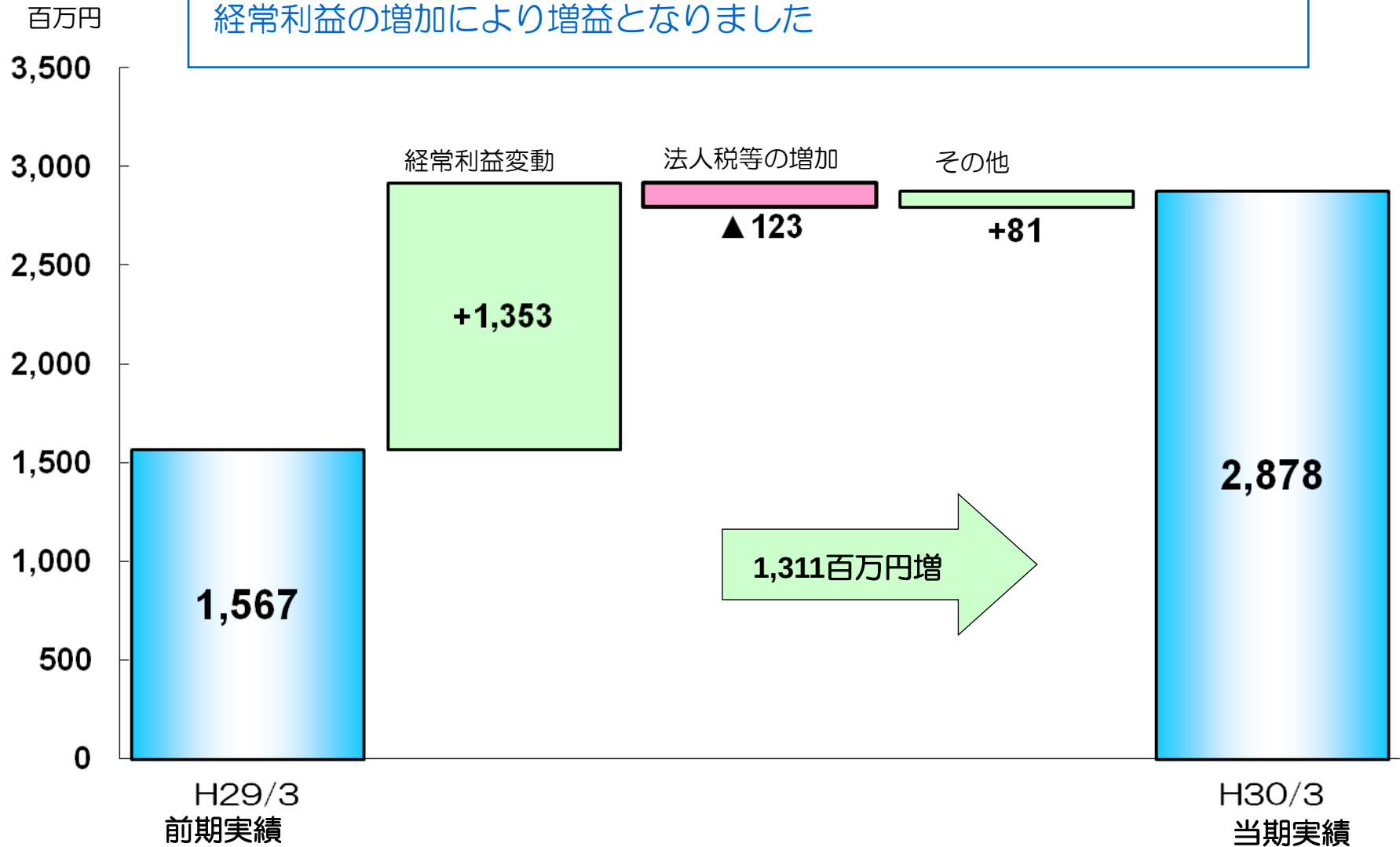
為替影響により増益となりました



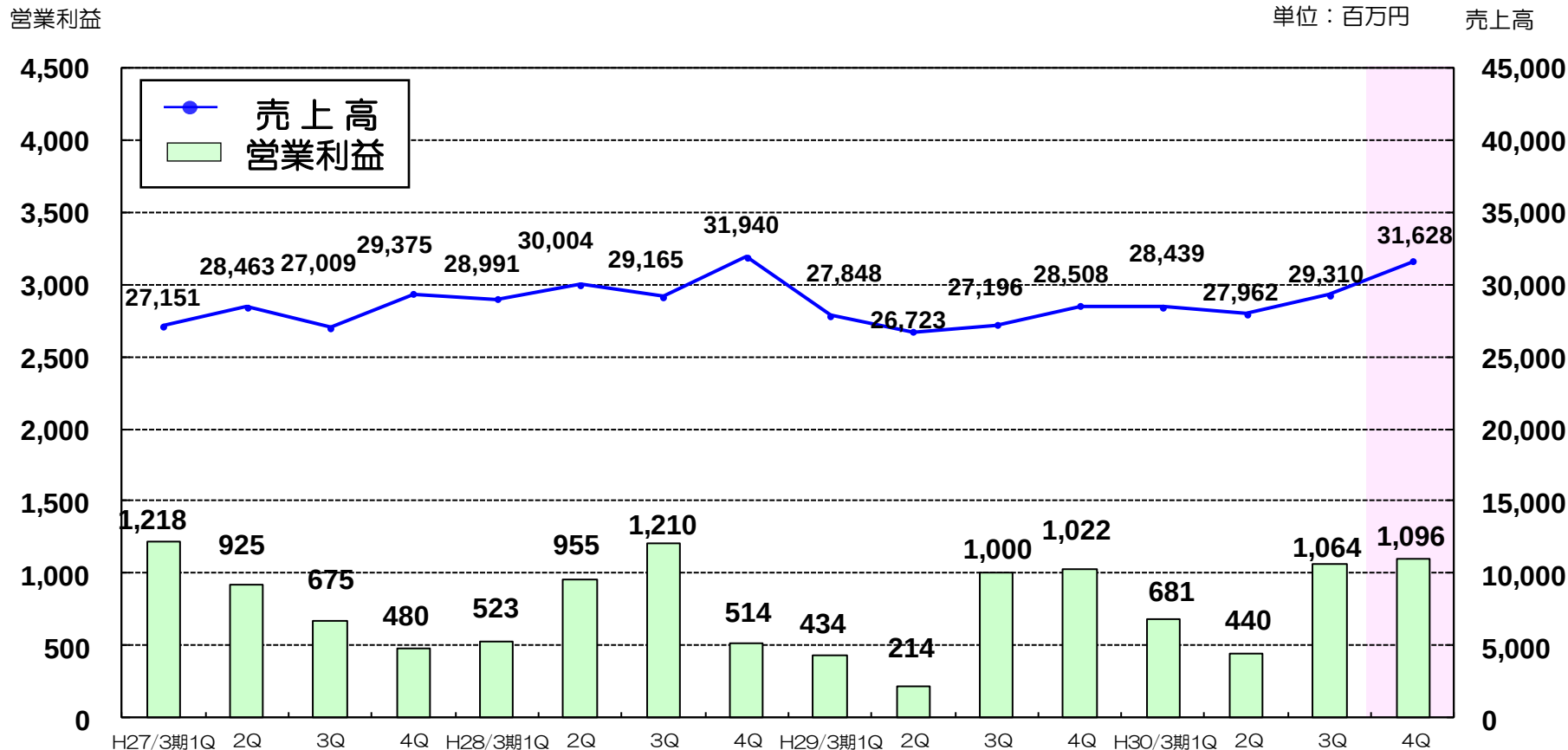
4Q実績 前年同期比変動要因：当期純利益

POINT

経常利益の増加により増益となりました



■連結売上高・営業利益の推移



POINT

H30/3期の第3四半期に比べ北米、中国、国内の増産により増収となりましたが、国内において為替が円高に推移したこともあり利益は微増となりました

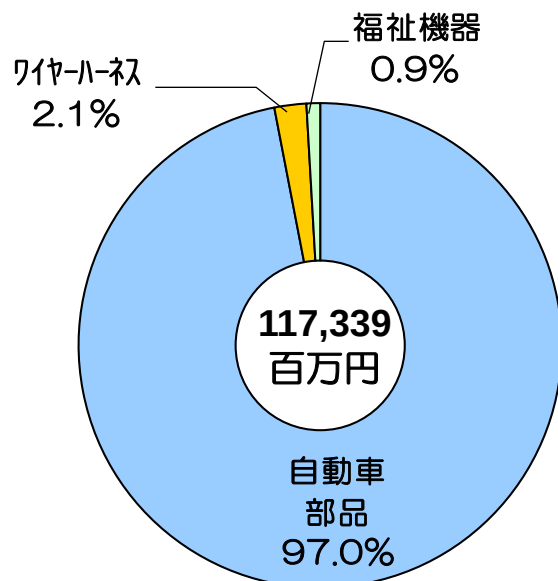
事業の種類別セグメント：自動車部品関連事業

百万円		自動車部品 関連事業	ワイヤーハル 関連事業	福祉機器 関連事業	連結
外部売上高	H30/3期	113,765	2,502	1,070	117,339
	H29/3期	106,670	2,563	1,040	110,275
	増減額	7,095	▲ 61	30	7,064
営業利益	H30/3期	3,440	▲ 152	▲ 20	3,281
	H29/3期	2,842	▲ 177	▲ 5	2,670
	増減額	598	25	▲ 15	611

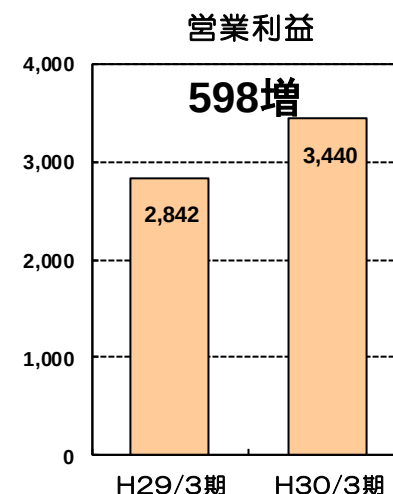
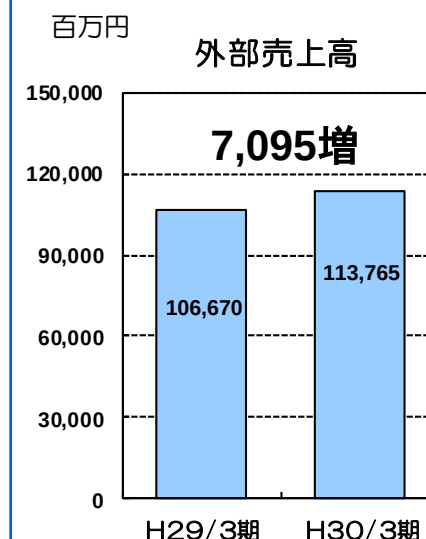
POINT

主要事業である自動車部品関連事業において、北米で生産減少したものの、国内、アジアでの生産増加などにより、増収増益となりました

事業の種類別 売上高構成



自動車部品関連事業



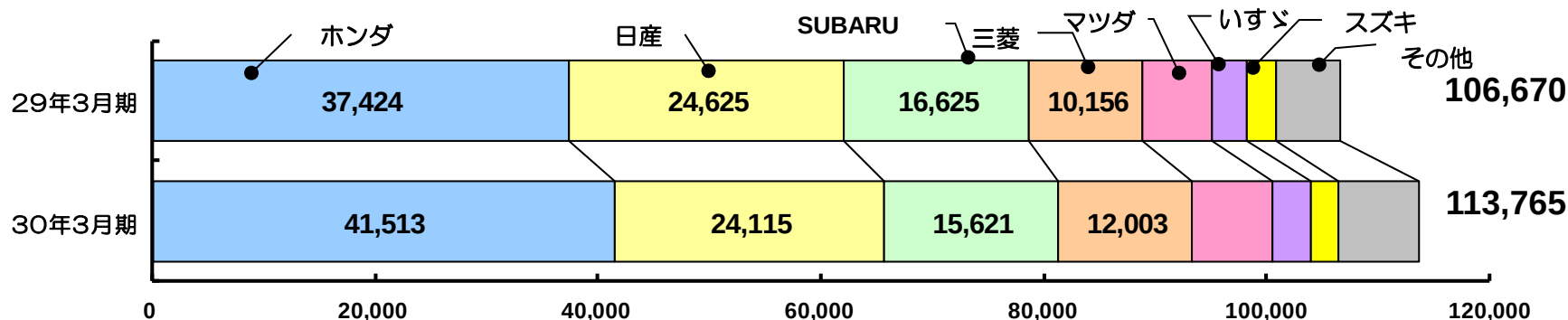
事業の種類別セグメント：自動車部品関連事業

得意先系列別 売上高構成

百万円	前期		当期		増 減	
		構成比		構成比	額	率
本田技研工業(株)	37,424	35.1%	40,598	35.7%	3,174	8.5%
日産自動車(株)	24,625	23.1%	24,115	21.2%	▲ 510	▲ 2.1%
(株)SUBARU	16,625	15.6%	15,621	13.7%	▲ 1,004	▲ 6.0%
三菱自動車工業(株)	10,156	9.5%	12,003	10.6%	1,847	18.2%
マツダ(株)	6,236	5.8%	7,294	6.4%	1,058	17.0%
いすゞ自動車(株)	3,124	2.9%	3,447	3.0%	323	10.3%
スズキ(株)	2,745	2.6%	3,408	3.0%	663	24.2%
ダイハツ工業(株)	730	0.7%	768	0.7%	38	5.2%
トヨタ自動車(株)	616	0.6%	641	0.6%	25	4.1%
日野自動車(株)	358	0.3%	371	0.3%	13	3.6%
ヤマハ発動機(株)	131	0.1%	101	0.1%	▲ 30	▲ 22.9%
その他	3,900	3.7%	5,398	4.7%	1,498	38.4%
計	106,670	100.0%	113,765	100.0%	7,095	6.7%

POINT

- ホンダ系列向け
 - ・中国、アジアにおける生産増加
- 日産系列向け
 - ・北米、国内における生産減少
- SUBARU系列向け
 - ・北米、国内における生産減少
- 三菱系列向け
 - ・国内、アジアにおける生産増加
- マツダ系列向け
 - ・国内、北米における生産増加



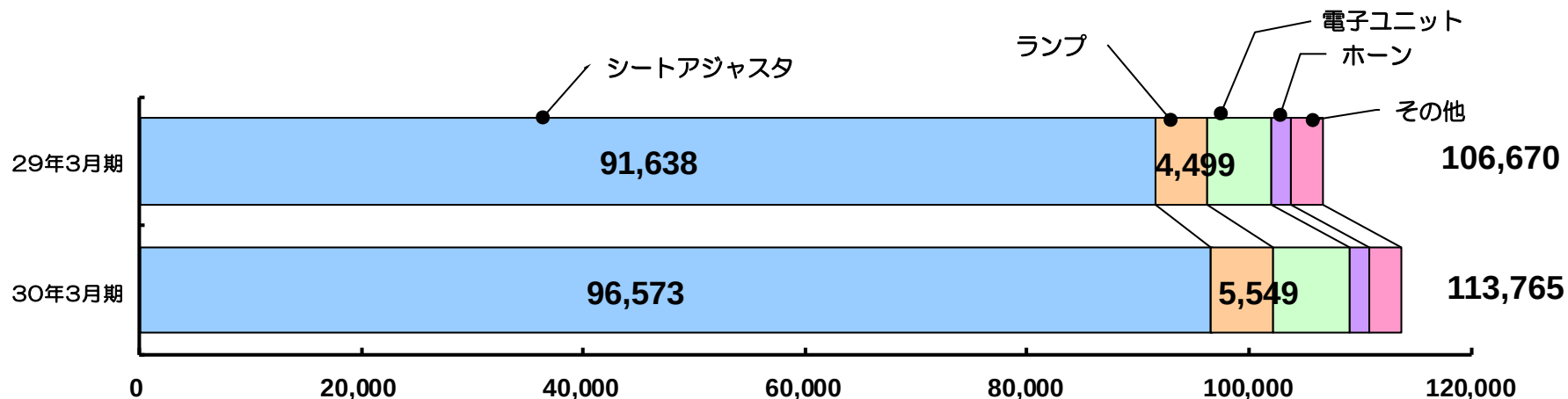
事業の種類別セグメント：自動車部品関連事業

■機種別 売上高構成

百万円	前期		当期		増 減	
		構成比		構成比	額	率
(1)機構部品	91,638	85.9%	96,573	84.9%	4,935	5.4%
シートアジャスタ	91,638	85.9%	96,573	84.9%	4,935	5.4%
(2)電装部品	12,060	11.3%	14,216	12.5%	2,156	17.9%
ランプ	4,499	4.2%	5,549	4.9%	1,050	23.3%
電子ユニット	5,911	5.5%	6,978	6.1%	1,067	18.1%
ホーン	1,650	1.6%	1,689	1.5%	39	2.4%
(3)その他	2,971	2.8%	2,976	2.6%	5	0.2%
合 計	106,670	100.0%	113,765	100.0%	7,095	6.7%

POINT

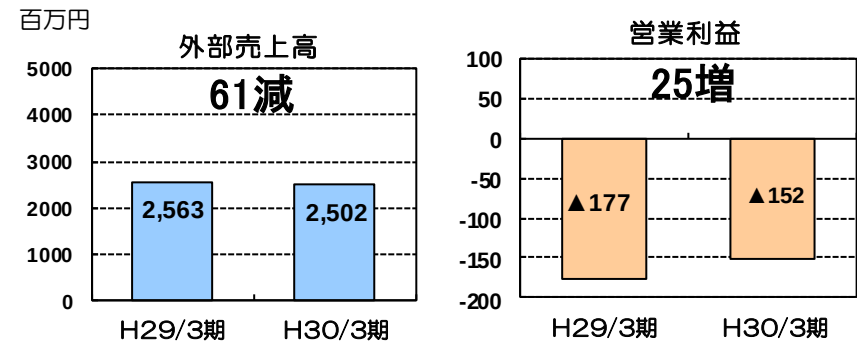
- 主力製品であるシートアジャスタは中国、タイでの増産により増加しました
- ランプは国内での生産が増加しました
- 電子ユニットは国内、北米、中国での生産が増加しました



■ワイヤーハーネス関連事業

POINT

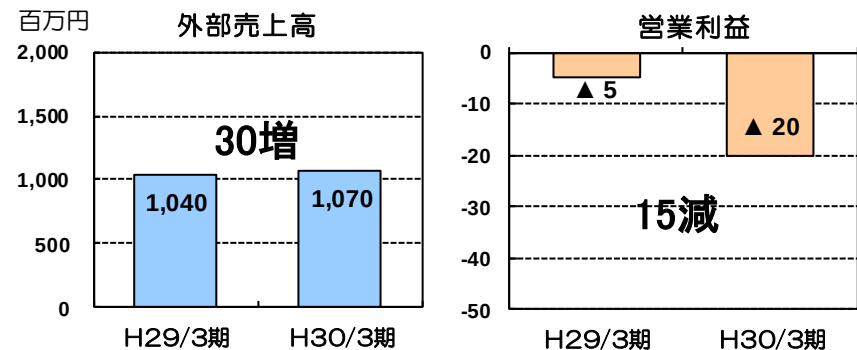
固定費の改善を進めたことにより利益回復となりました



■福祉機器関連事業

POINT

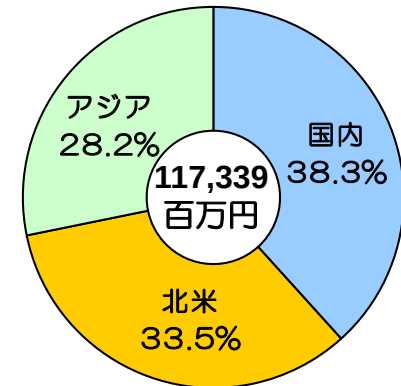
新規立ち上り費用等の増加により減益となりました



■所在地別売上高構成

百万円		国内	北米	アジア	連結
外部売上高	H30/3期	44,899	39,321	33,118	117,339
	H29/3期	43,447	41,406	25,420	110,275
	増減額	1,452	▲ 2,085	7,698	7,064
営業利益	H30/3期	1,129	▲ 788	2,924	3,281
	H29/3期	323	715	1,681	2,670
	増減額	806	▲ 1,503	1,243	611

所在地別 外部売上高



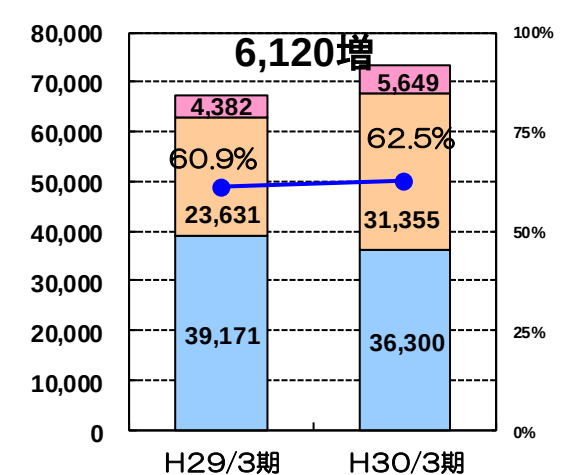
■国別売上高

百万円	国内	北米	アジア	その他	連結
H30/3期	44,033	36,300	31,355	5,649	117,339
H29/3期	43,090	39,171	23,631	4,382	110,275
増減額	943	▲ 2,871	7,724	1,267	7,064

※国別売上高とは顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています

百万円

海外売上高



POINT

所在地別売上高は北米にて減収減益となりましたが、アジアは生産増加による増収増益、国内においては生産増加による増収と原価低減活動により大きく増益となりました

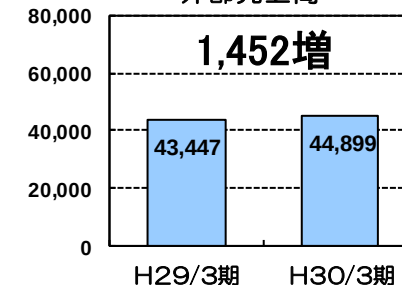
国内

POINT

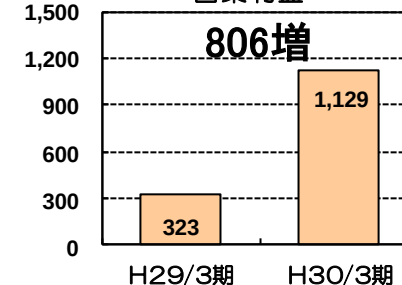
マツダ、三菱向け生産増加による生産増加影響と原価低減活動により大きく増収増益となりました

百万円

外部売上高



営業利益



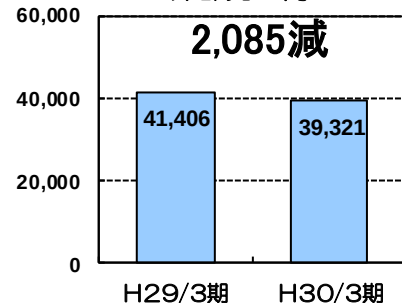
北米

POINT

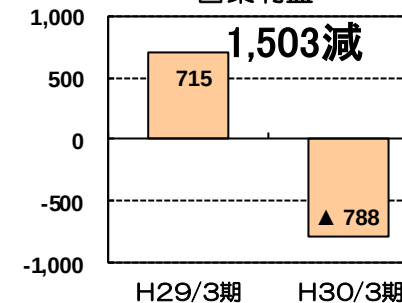
ホンダ系列向けの生産減少の影響を受け、減収減益となりました

百万円

外部売上高



営業利益



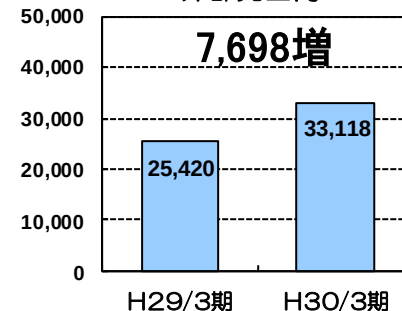
アジア

POINT

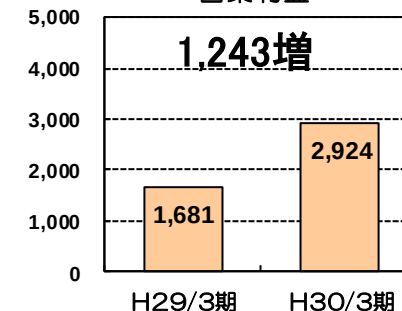
中国、タイにおける生産増加により増収増益となりました

百万円

外部売上高



営業利益

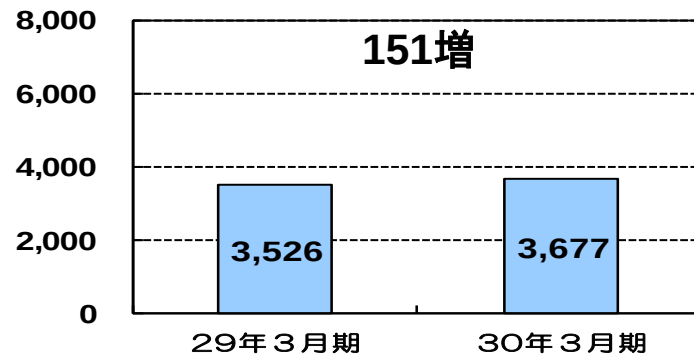


■設備投資

POINT

国内は新規立上り・増産対応により増加しましたが、全体では前期並みとなっております

百万円



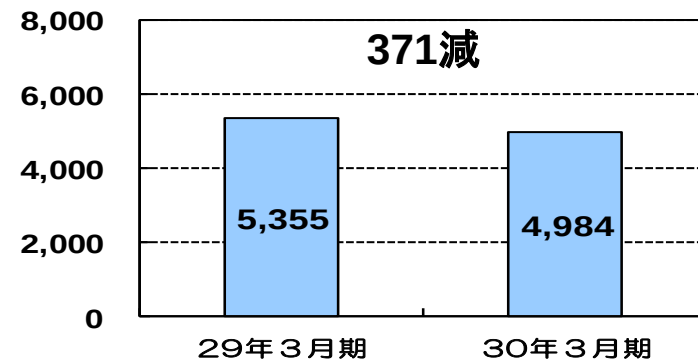
	29年3月期 (実績)	30年3月期 (実績)	前期比増減
国内	1,911	2,425	514
北米	685	312	▲ 373
メキシコ	238	62	▲ 176
中国	263	618	355
タイ	369	48	▲ 321
フィリピン	35	64	29
台湾	21	11	▲ 10
インド	2	137	135
インドネシア	2	0	▲ 2
合計	3,526	3,677	151

■減価償却費

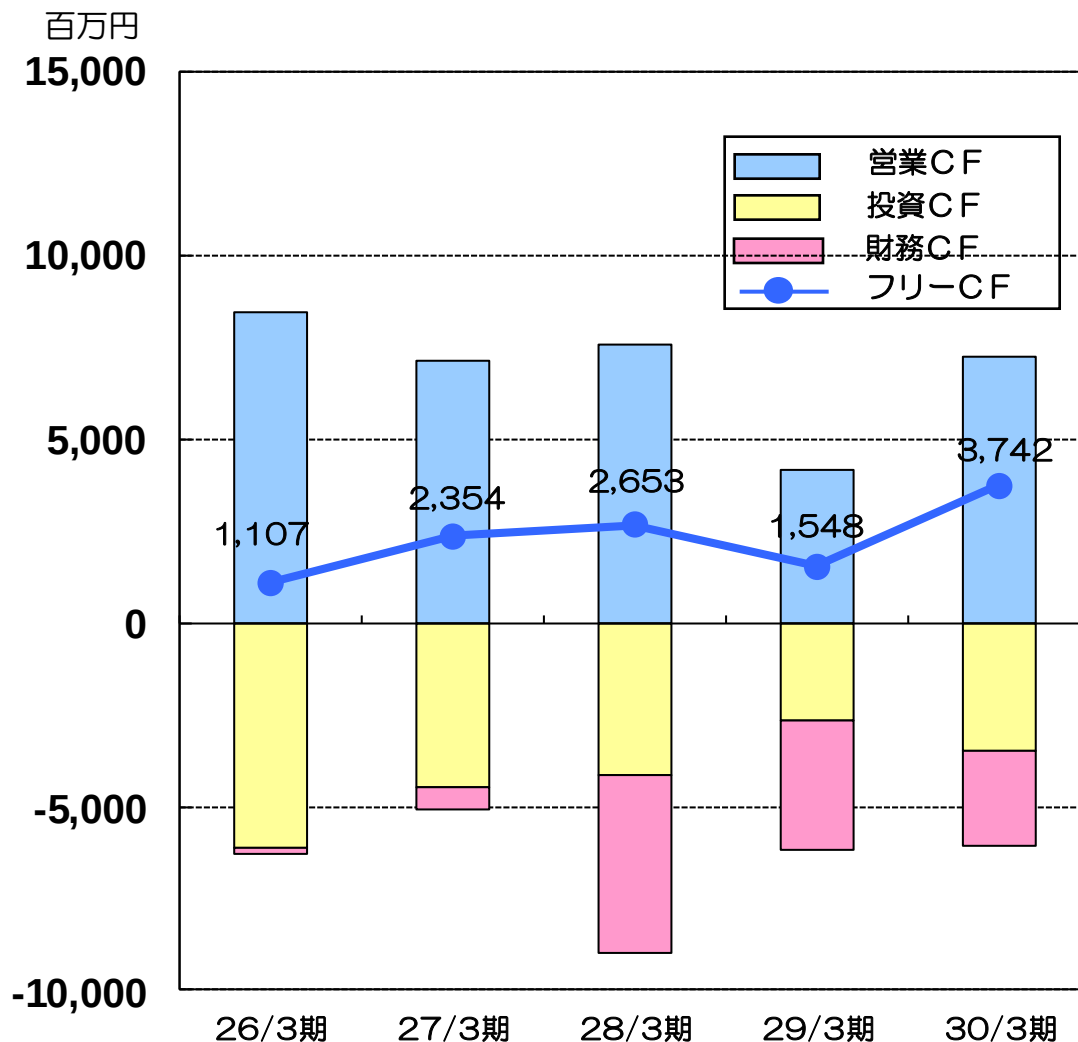
POINT

日本と北米における減価償却費は減少しております

百万円



	29年3月期 (実績)	30年3月期 (実績)	前期比増減
日本	2,651	2,463	▲ 188
北米	1,489	1,244	▲ 245
メキシコ	99	133	34
中国	533	564	31
タイ	430	431	1
フィリピン	86	68	▲ 18
台湾	19	18	▲ 1
インド	48	49	1
インドネシア	0	14	14
合計	5,355	4,984	▲ 371



POINT

■ 営業CFは、利益の増加などにより、増加しました

■ 投資CFは有形固定資産の取得により、増加しました

■ 財務CFはリース債務の返済により、減少しました

■ フリーCFは3,742百万円となりました

※6/15の開示に伴い、30/3期の財務CFのグラフを修正

Ⅱ. 平成31年3月期 業績見通し概要

百万円	前期実績 (H30年3月期)	当期予想 (H31年3月期)	増減額		増減率
売上高	117,339	118,000	661	0.6%	
営業利益	3,281	4,200	919	28.0%	
経常利益	3,400	3,900	500	14.7%	
当期純利益	2,878	2,700	▲178	▲6.2%	
1株当たり純利益	139.21円	129.85円	▲9.36円	▲6.7%	

POINT

為替の円高影響があるものの、国内および中国の生産増加により、増収増益を予想しております

ご参考

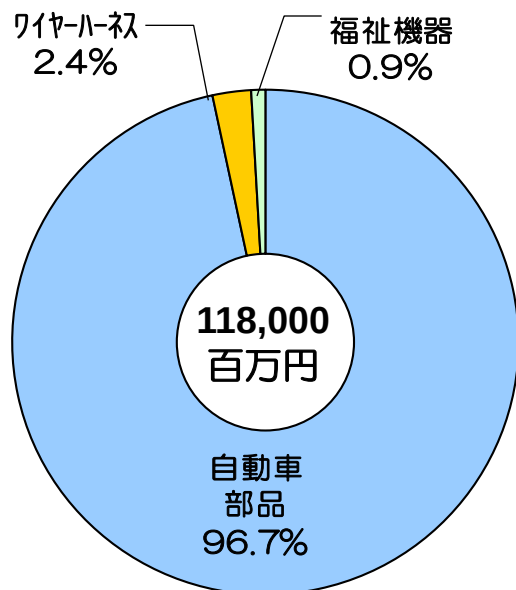
USD 31/3期 107.00円 30/3期 112.16円 5.16円の円高
 CNY 31/3期 17.09円 30/3期 16.62円 0.47円の円安
 THB 31/3期 3.43円 30/3期 3.31円 0.12円の円高

百万円		自動車部品 関連事業	ワイヤーハース 関連事業	福祉機器 関連事業	連結
外部売上高	H31/3期	114,050	2,900	1,050	118,000
	H30/3期	113,765	2,502	1,070	117,339
	増減額	285	398	▲ 20	661
営業利益	H31/3期	4,150	0	40	4,200
	H30/3期	3,440	▲ 152	▲ 20	3,281
	増減額	710	152	60	919

POINT

自動車部品関連事業において、国内および中国での生産増加により、増収増益を予想しております

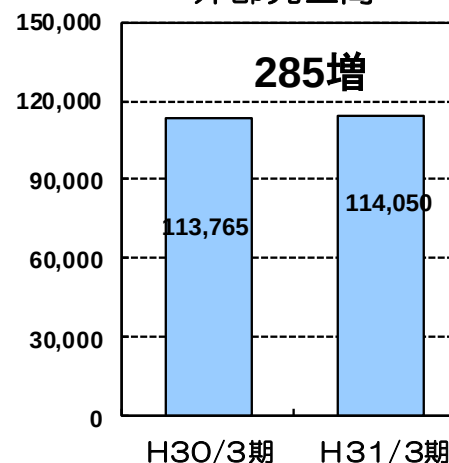
事業の種類別 売上高構成



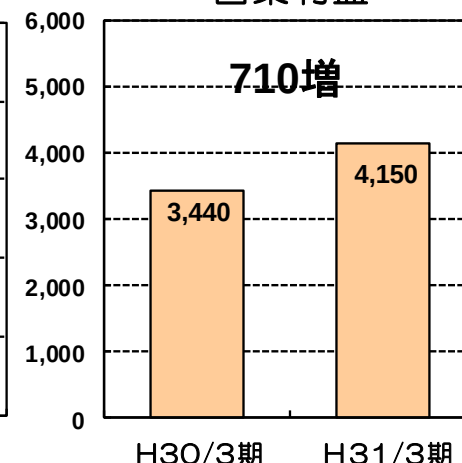
自動車部品関連事業

百万円

外部売上高



営業利益

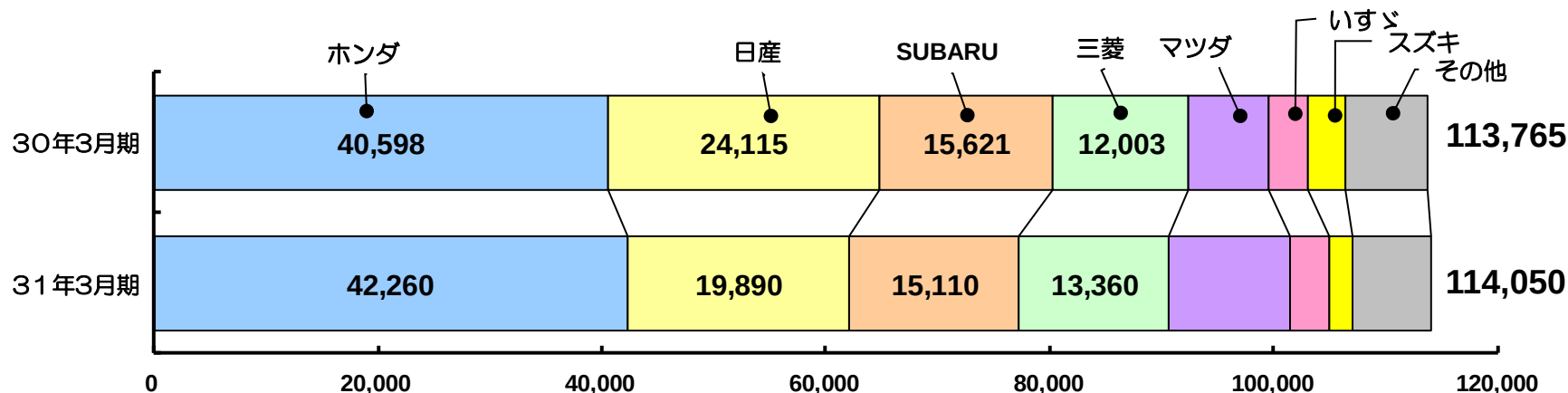


得意先系列別 売上高構成

百万円	前期		当期 (予想)		増 減	
		構成比		構成比	額	率
本田技研工業(株)	40,598	35.7%	42,260	37.1%	1,662	4.1%
日産自動車(株)	24,115	21.2%	19,890	17.4%	▲ 4,225	▲ 17.5%
(株)SUBARU	15,621	13.7%	15,110	13.2%	▲ 511	▲ 3.3%
三菱自動車工業(株)	12,003	10.6%	13,360	11.7%	1,357	11.3%
マツダ(株)	7,294	6.4%	10,810	9.5%	3,516	48.2%
いすゞ自動車(株)	3,447	3.0%	3,600	3.2%	153	4.4%
スズキ(株)	3,408	3.0%	1,960	1.7%	▲ 1,448	▲ 42.5%
ダイハツ工業(株)	768	0.7%	800	0.7%	32	4.2%
トヨタ自動車(株)	641	0.6%	680	0.6%	39	6.1%
日野自動車(株)	371	0.3%	400	0.4%	29	7.8%
ヤマハ発動機(株)	101	0.1%	100	0.1%	▲ 1	▲ 1.0%
その他	5,398	4.7%	5,080	4.4%	▲ 318	▲ 5.9%
計	113,765	100.0%	114,050	100.0%	285	0.3%

POINT

- ホンダ系列向け
 - ・中国における生産増加
- 日産系列向け
 - ・北米における生産減少
- SUBARU系列向け
 - ・国内、北米における生産減少
- マツダ系列向け
 - ・国内における生産増加
- スズキ系列向け
 - ・アジアにおける生産減少

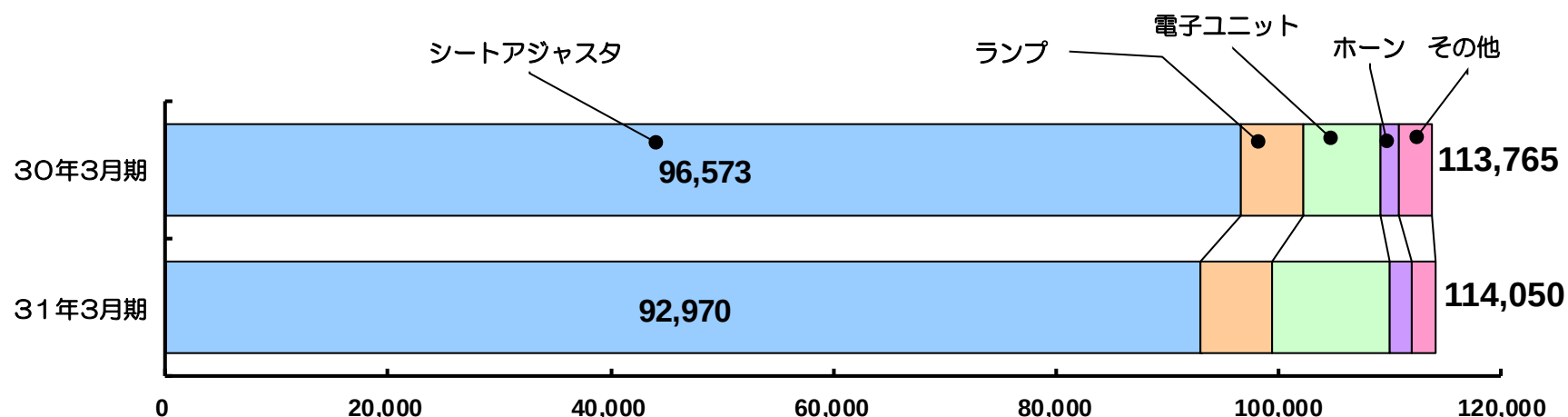


■機種別 売上高構成

百万円	前期		当期 (予想)		増 減	
		構成比		構成比	額	率
(1)機構部品	96,573	84.9%	92,970	81.5%	▲ 3,603	▲ 3.7%
シートアジャスタ	96,573	84.9%	92,970	81.5%	▲ 3,603	▲ 3.7%
(2)電装部品	14,216	12.5%	18,920	16.6%	4,704	33.1%
ランプ	5,549	4.9%	6,440	5.6%	891	16.1%
電子ユニット	6,978	6.1%	10,460	9.2%	3,482	49.9%
ホーン	1,689	1.5%	2,020	1.8%	331	19.6%
(3)その他	2,976	2.6%	2,160	1.9%	▲ 816	▲ 27.4%
合 計	113,765	100.0%	114,050	100.0%	285	0.3%

POINT

・グローバルでの価格競争激化によりシートアジャスタが減少しますが、電子ユニットの新規立上りの売上増加により増収となる見込み



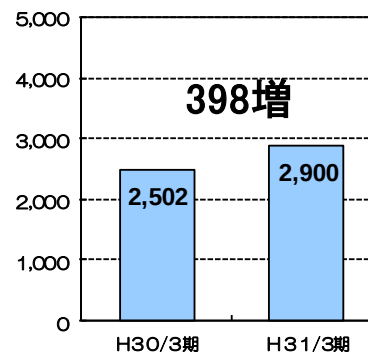
■ワイヤーハーネス関連事業

POINT

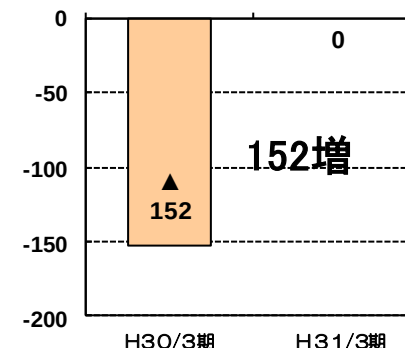
航空機関連、工作機械関連のいずれも受注増加による増収を予想しており、利益回復を予想しております

百万円

外部売上高



営業利益



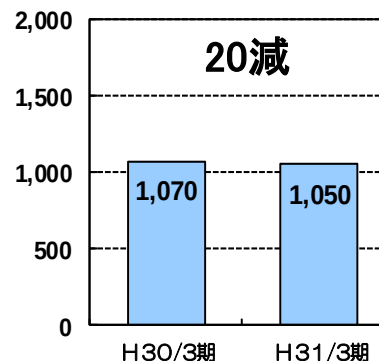
■福祉機器関連事業

POINT

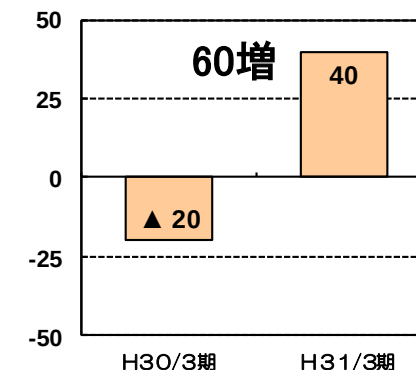
売上が前期並みとなる中、原価低減活動による黒字化を予想しております

百万円

外部売上高



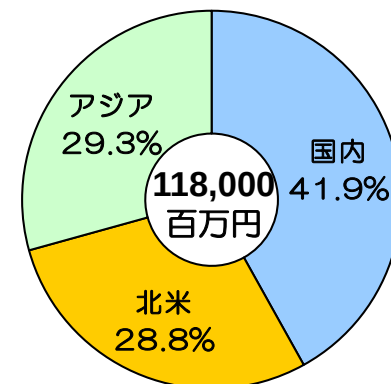
営業利益



■所在地別売上高構成

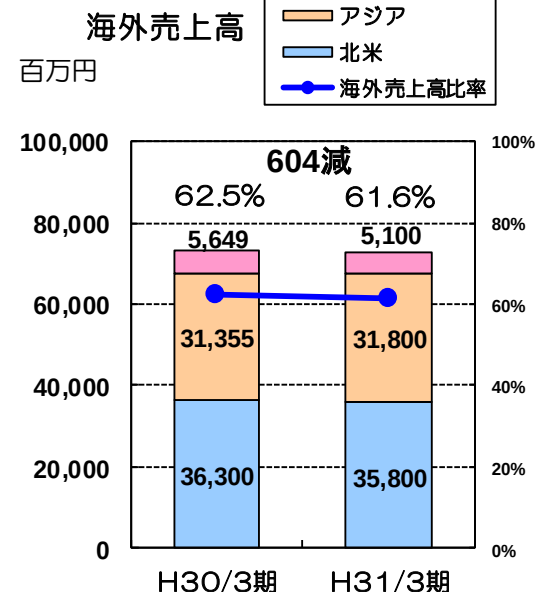
百万円		国内	北米	アジア	連結
外部売上高	H31/3期	49,460	33,930	34,610	118,000
	H30/3期	44,899	39,321	33,118	117,339
	増減額	4,561	▲ 5,391	1,492	661
営業利益	H31/3期	2,130	▲ 440	2,510	4,200
	H30/3期	1,129	▲ 788	2,924	3,281
	増減額	1,001	348	▲ 414	919

所在地別 外部売上高



■国別売上高

百万円	国内	北米	アジア	その他	連結
H31/3期	45,300	35,800	31,800	5,100	118,000
H30/3期	44,033	36,300	31,355	5,649	117,339
増減額	1,267	▲ 500	445	▲ 549	661



POINT

■売上高の所在地別割合は北米が減少し国内とアジアが増加と予想

■海外売上高比率は国内売上増加が影響し微減と予想

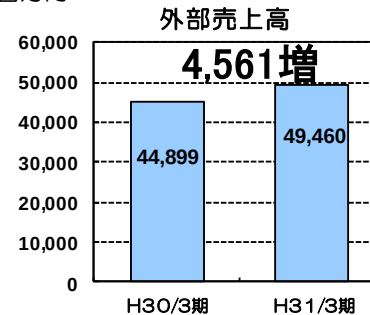
31/3予想 所在地別セグメント情報

国内

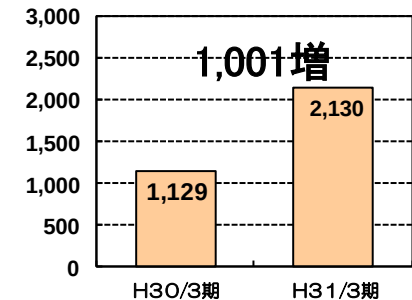
POINT

生産増加影響および電子ユニットの新規立上り効果により増収増益を見込んでおります

百万円



営業利益

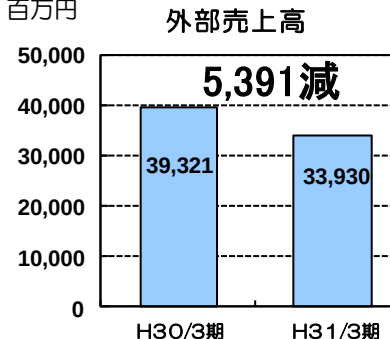


北米

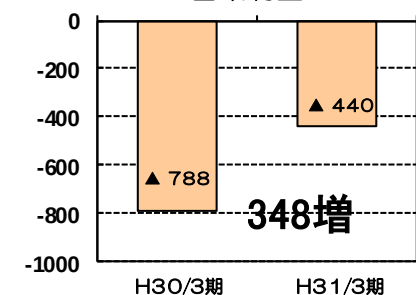
POINT

生産減少が影響し減収となりますが、原価低減活動により利益の回復を見込んでおります

百万円



営業利益

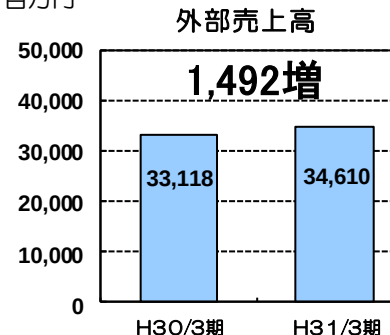


アジア

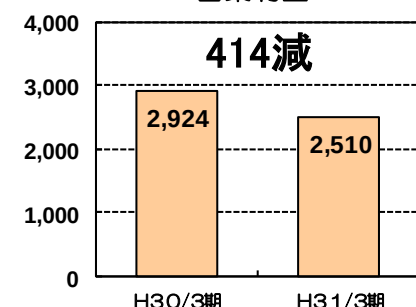
POINT

中国、タイの生産増加により増収を見込んでおりますが、フィリピン、インド、インドネシアの生産減少により減益を見込んでおります

百万円



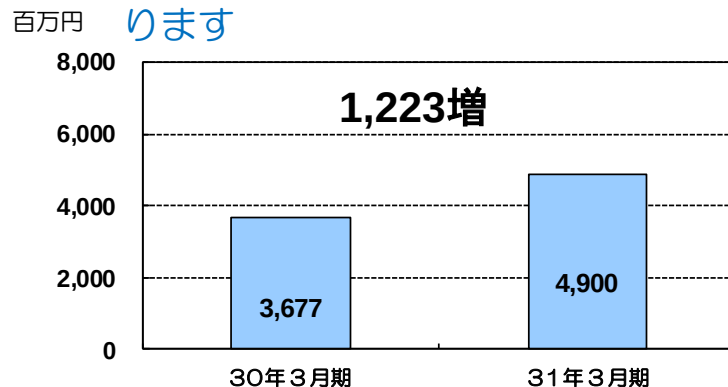
営業利益



■設備投資

POINT

新規立上り対応と電子ユニットの海外展開に係る投資を見込んでおります

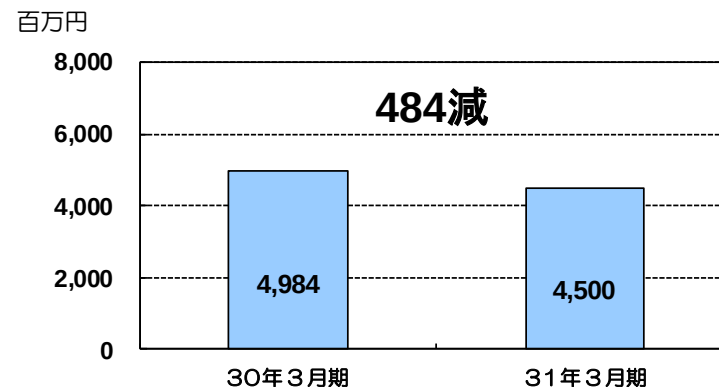


	30年3月期 (実績)	31年3月期 (予想)	前期比増減
日本	2,425	2,982	557
北米	312	261	▲ 51
メキシコ	62	74	12
中国	618	559	▲ 59
タイ	48	503	455
フィリピン	64	454	390
台湾	11	55	44
インド	137	12	▲ 125
インドネシア	0	0	0
合計	3,677	4,900	1,223

■減価償却費

POINT

北米において減価償却費の減少を見込んでおります



	30年3月期 (実績)	31年3月期 (予想)	前期比増減
日本	2,463	2,463	0
北米	1,244	833	▲ 411
メキシコ	133	122	▲ 11
中国	564	605	41
タイ	431	333	▲ 98
フィリピン	68	29	▲ 39
台湾	18	31	13
インド	49	72	23
インドネシア	14	12	▲ 2
合計	4,984	4,500	▲ 484

Ⅲ. 今後の経営方針

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り
2. Dream2020 フェーズ3 重点展開方針

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

(2015年度-2017年度)

- ① フェーズ2 重点展開方針
- ② フェーズ2 連結売上、営業利益率推移
- ③ フェーズ2 振り返りまとめ

① フェーズ2 重点展開方針

Dream 2020

【フェーズ1】

2014年度

連結売上高 1,120億円

営業利益率 2.9%

フェーズ1 (2012～2014年度)

①研究開発の強化

②人材育成とグローバル活用

③グローバルでの事業拡大

④国内事業の再編

⑤非自動車領域の事業開発

⑥グローバルマネジメント確立

【フェーズ2】

2017年度

営業利益率 5.5%

フェーズ2 (2015～2017年度)

<重点展開方針>

技術革新

今仙グループの総力を結集させイノベーションを推進する【技術、造り、品質、管理】

国内事業の再構築

今後拡大が見込めない国内市場において事業、生産拠点をあるべき姿に再構築する【新規事業、生産拠点再編】

グローバル拠点最適化

グローバル拠点の競争力およびネットワークの強化を推進する

人材育成

グローバルでの人材育成を加速させ強化する

2020年度目標

連結売上高 1,800億円

営業利益率 7%

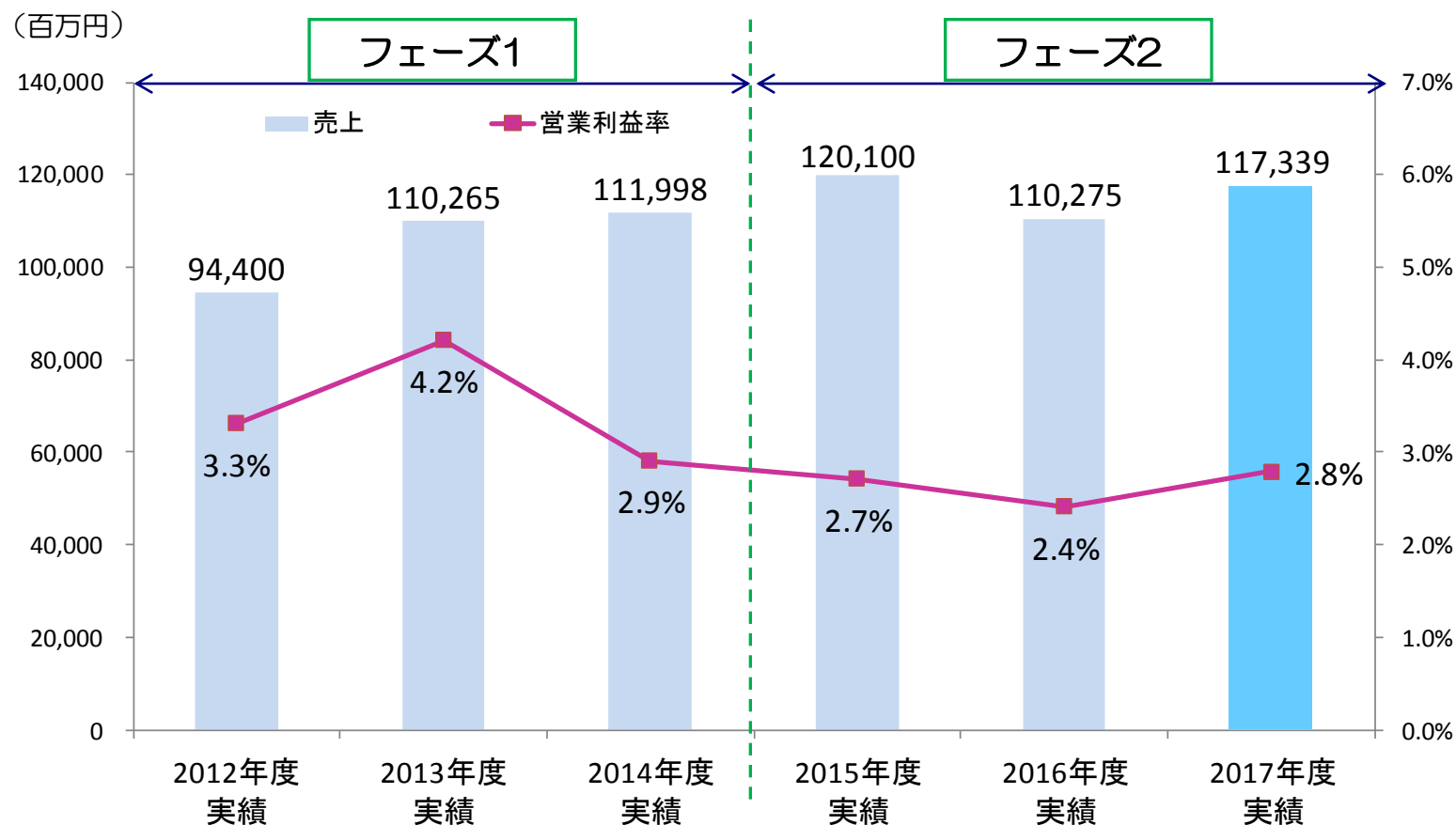
フェーズ3 (2018～2020年度)

事業拡大

変革と種まき

飛躍

②フェーズ2 連結売上、営業利益率推移



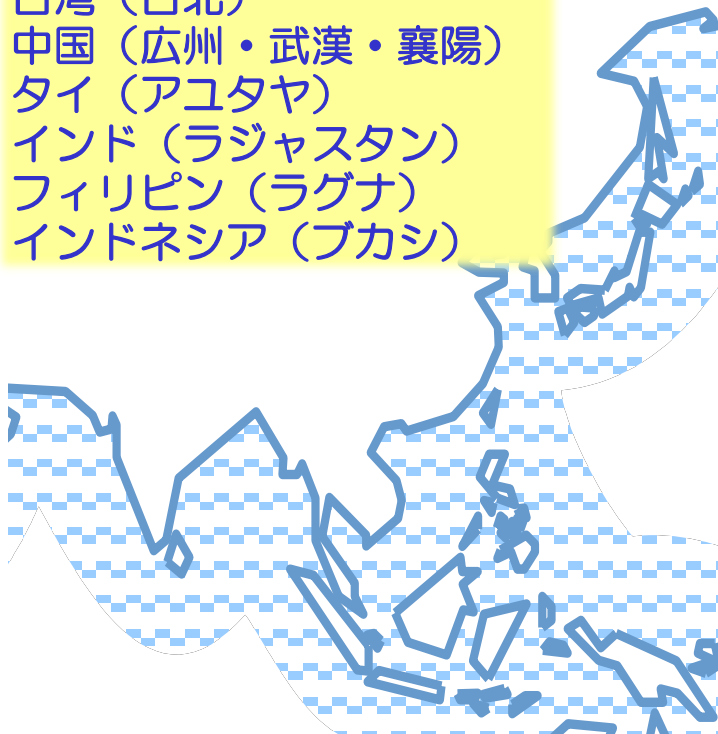
- ・売上はフェーズ1で増加するものの、フェーズ2では横ばい
- ・フェーズ2 目標営業利益率は未達成

③フェーズ2 振り返りまとめ

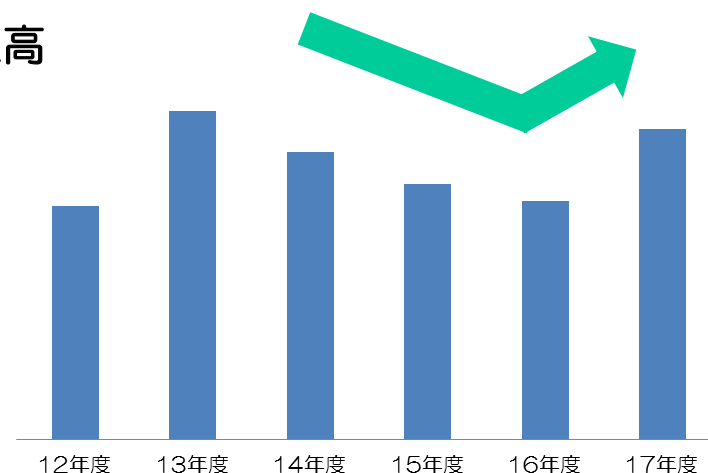
未達区分	未達要因
グローバル価格競争激化	・欧米のメガサプライヤーや新興国のローカルサプライヤーとの競争により受注価格が厳しくなった
アジアの成長率鈍化	・経済成長の減速から当初予定した生産台数に大きく届かなかった ・受注車種の販売低迷
北米事業の低迷	・改善実施により一時的な効果があったものの、大きな需要の変化による生産減少や雇用問題による費用の増加が発生した

■アジア事業の成長率鈍化

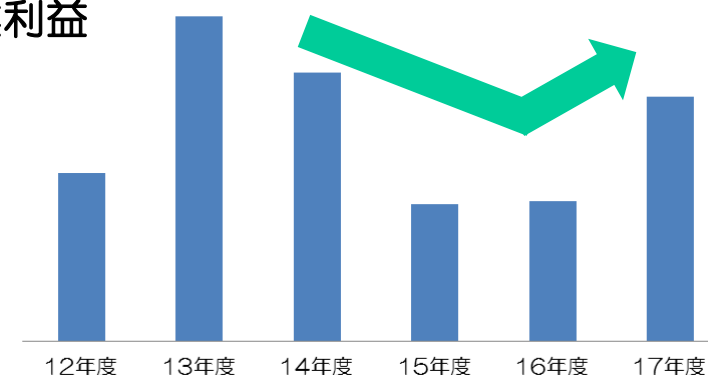
台湾（台北）
中国（広州・武漢・襄陽）
タイ（アユタヤ）
インド（ラジャスタン）
フィリピン（ラグナ）
インドネシア（ブカシ）



売上高



営業利益



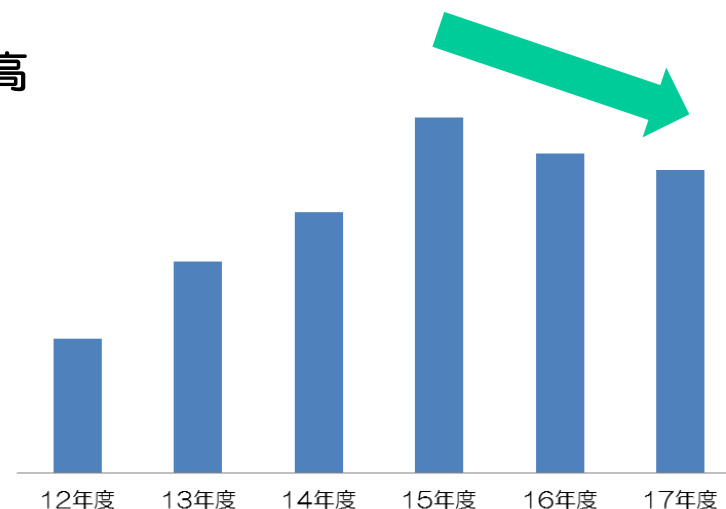
- ・当初想定していた生産台数が大きく減少したことと、受注車種が販売低迷したこともあり、大きく減少
- ・改善効果が表れはじめ、収益は回復傾向

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

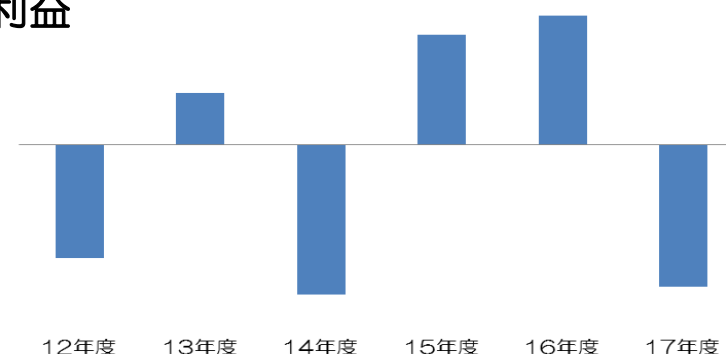
■北米事業の低迷



売上高



営業利益



- ・改善実施により一時的な効果があったものの、大きな需要の変化による生産減少や雇用問題による費用の増加が発生

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

■成果のあった取り組み（技術革新）



・開発体制を強化し、次世代商品を開発

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

■成果のあった取り組み（技術革新）

自由シート

【狙い】
移動中の快適を追求



【機能】
シートアジャスタのロック技術の
応用によりハンモックの快適性を
車内で提供

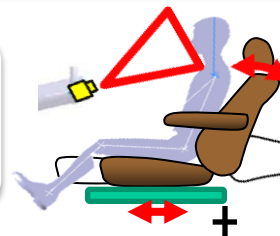
JUST FIT・ドライバーモニターシステム

【狙い】
車の「シェアカー」時代を
見据えた利便性向上

【狙い】
“ドライバーを見守る”
眠気、覚醒状態をセンシング

カメラで目の位置検知

【機能】
ドライバーの体形
を読み取り最適な
姿勢へ自動調整



【機能】
カメラによりドライバー
の動きをセンシングし、
ドライバーの状態を判断

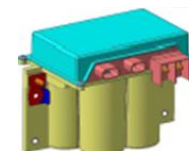
バッテリーバックアップシステム

【狙い】
EV車両の時代を見据え、搭載
されるバッテリーの故障、電力
ダウンに備える

【機能】
瞬時にバッテリーダウンを判
断してキャパシタに蓄えてい
た電気の供給を開始する制御



バッテリーの
予期せぬ故障、
電源ダウン



バックアップ
システム作動

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

2017年6月発売

■成果のあった取り組み（技術革新）

2014年9月発売

【ACS I V E】



【ACS I V E Easy fit】



【両脚用ACS I V E】

【医療介護】

【レジャー】

【軽労】

【Super ACS I V E】



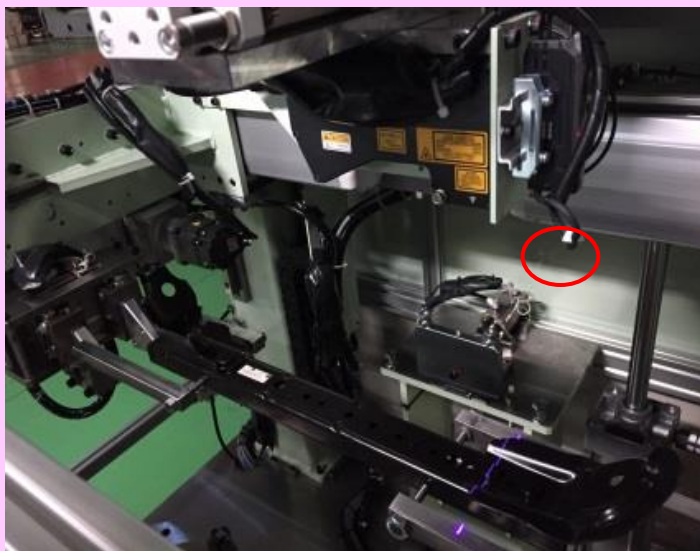
・福祉事業（非自動車事業）開発を強化し、社会貢献を果たす

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

■成果のあった取り組み（技術革新）

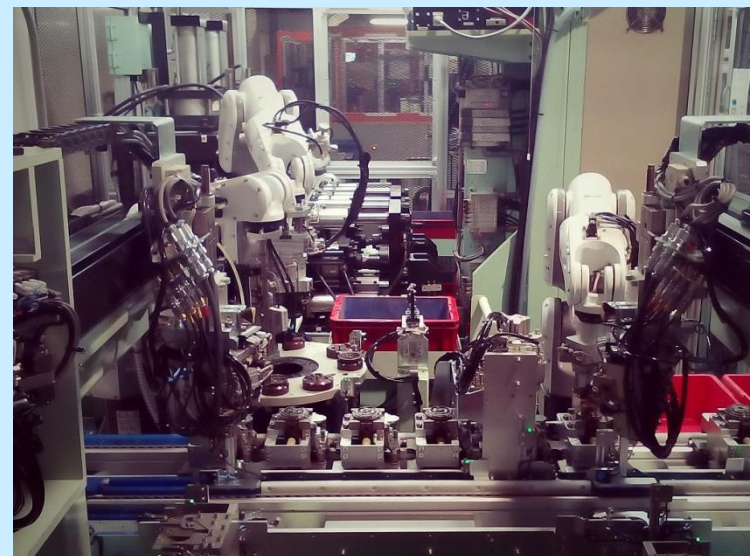
【シートレール検査機】

カメラ：目 システム：脳



【技術革新】 新生産ライン 汎用性有・知能化

【コア製品の生産自動化】



・従来の生産方式からの脱却し競争力を築く

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

■成果のあった取り組み（人材育成）

実施内容



最先端 技術の習得

- 産学連携による最新、最先端の情報や技術を共有

- 大学教授を講師に招き最新の専門分野に特化した研究情報の勉強会を開催



環境整備

- 大学内に研究室を設置して教授とタイムリーに協議できる環境を整えた

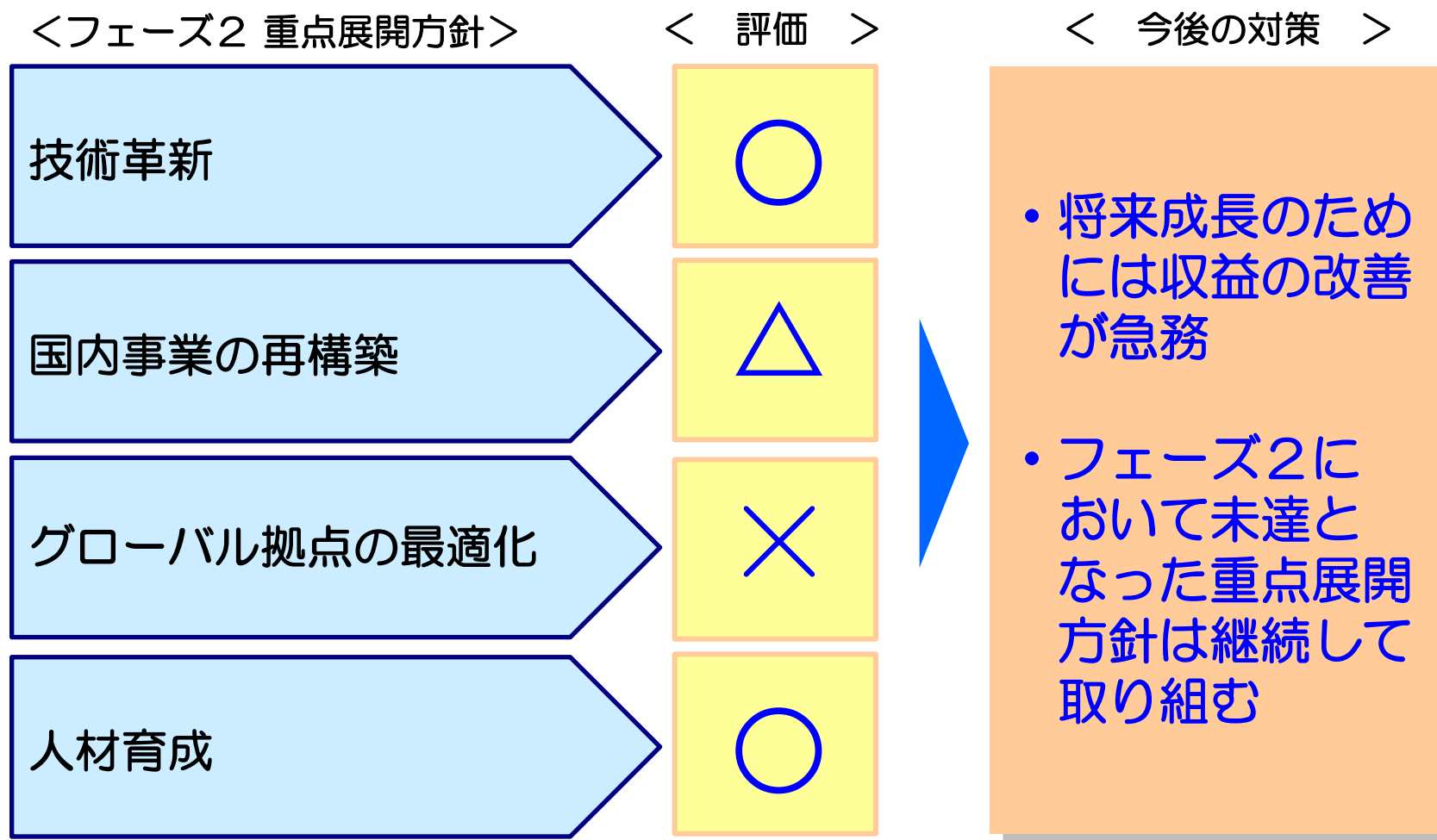
スキルアップ

- グローバル教育の充実
- 海外スタッフとの人材交流

- 社員のスキルアップに取り組み、グループ全体の底上げを図る

1. Dream2020 フェーズ2の振り返り

■フェーズ2の振り返りまとめ

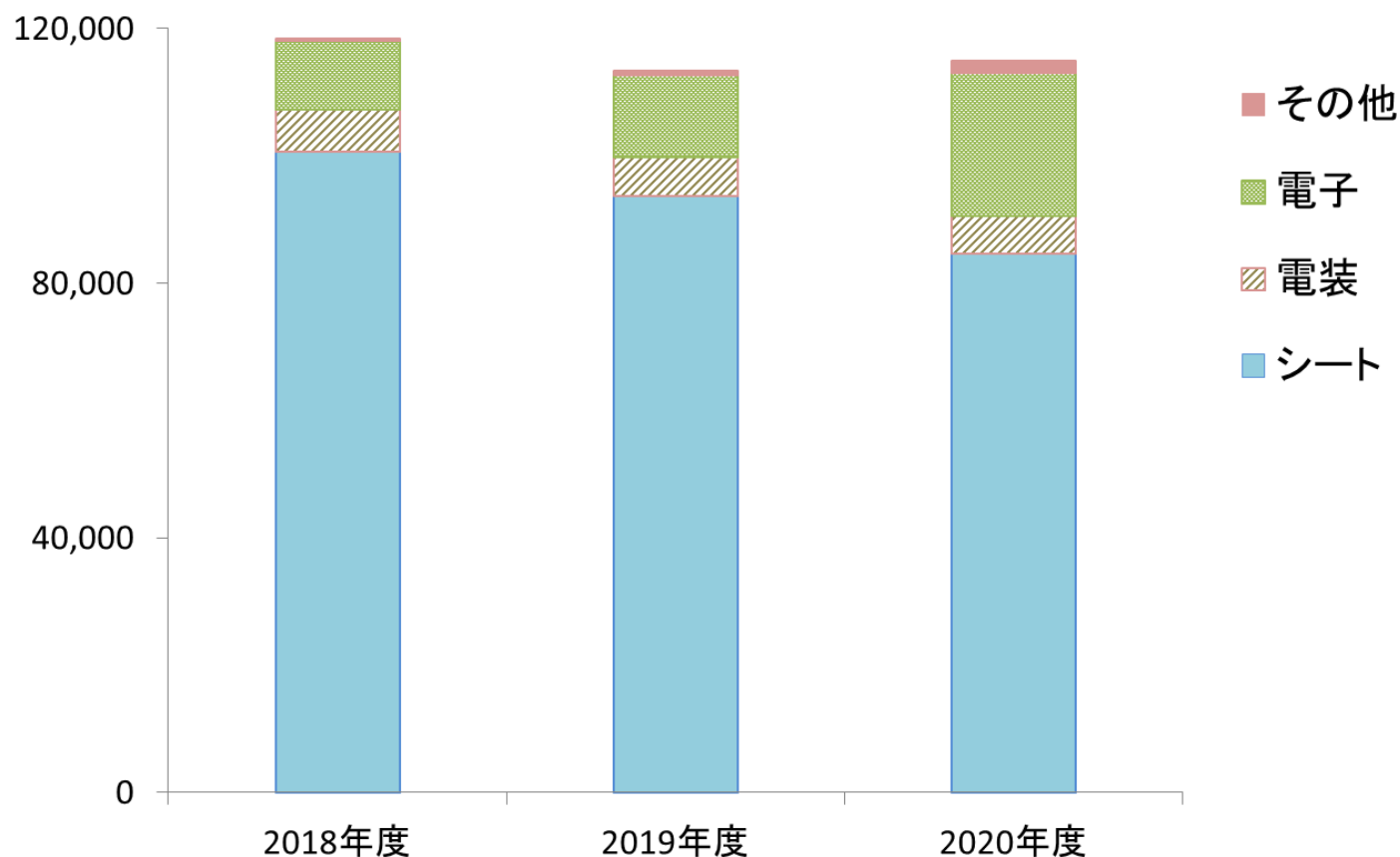


2. Dream2020 フェーズ3の重点展開方針 (2018年度-2020年度)

- ① フェーズ3 連結売上高推移
- ② フェーズ3 重点展開方針

①フェーズ3 事業別 連結売上高推移

(百万円)



・連結売上高は横ばい、電子事業の生産が増加する見込み

②フェーズ3 重点展開方針

Dream 2020

3年単位の中期ステップにて展開

【フェーズ1】

2014年度実績

連結売上高 1,119億円

営業利益率 2.9%

【フェーズ2】

2017年度実績

営業利益率 2.8%

【フェーズ3】

2020年度目標

営業利益率 6.0%

シートアジャスタ
世界トップ

環境・安全
新製品

非自動車

フェーズ3(2018~2020 年度)

①技術革新

今仙グループの総力を結集させイノベーションを推進する【技術、造り、品質、管理】

②国内事業の再構築

今後拡大が見込めない国内市場において事業、生産拠点をあるべき姿に再構築する【新規事業、生産拠点再編】

③グローバル拠点最適化

グローバル拠点の競争力およびネットワークの強化を推進する

④人材育成

グローバルでの人材育成を加速させ強化する

⑤事業の選択と集中

リソースの適正配分により事業全体での収益体質強化を図る

フェーズ1(2012~2014 年度)

①研究開発の強化

②人材育成とグローバル活用

③グローバルでの事業拡大

④国内事業の再編

⑤非自動車領域の事業開発

⑥グローバルマネジメント確立

フェーズ2(2015~2017 年度)

①技術革新

②国内事業の再構築

③グローバル拠点最適化

④人材育成

- ・フェーズ2目標未達に鑑み、フェーズ2の重点展開方針は継続実施
- ・収益体質改善に向けて事業の選択と集中を図る

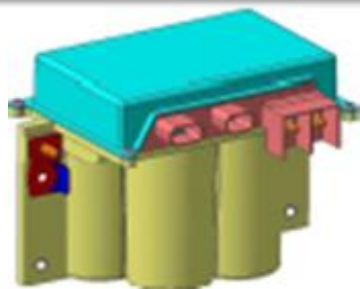
【技術革新】

環境

温室効果ガス削減 /
燃費向上 → 軽量化

バッテリーバックアップシステム

バッテリー故障時の備え



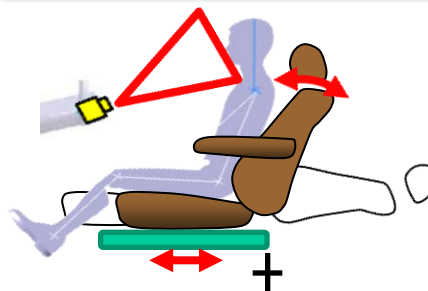
安全

安全/便利性UP →
通信/電子化

事故予防 →
アクティブセーフティー

JUST FIT・ドライバーモニターシステム

カメラで目の位置検知



快適

快適移動空間 →
低騒音/低振動化

自由シート

V字スライド



・人々のクルマの使い方に進化した価値を提供する

【グローバル拠点最適化】

WICO（武漢今仙）第二工場 建設



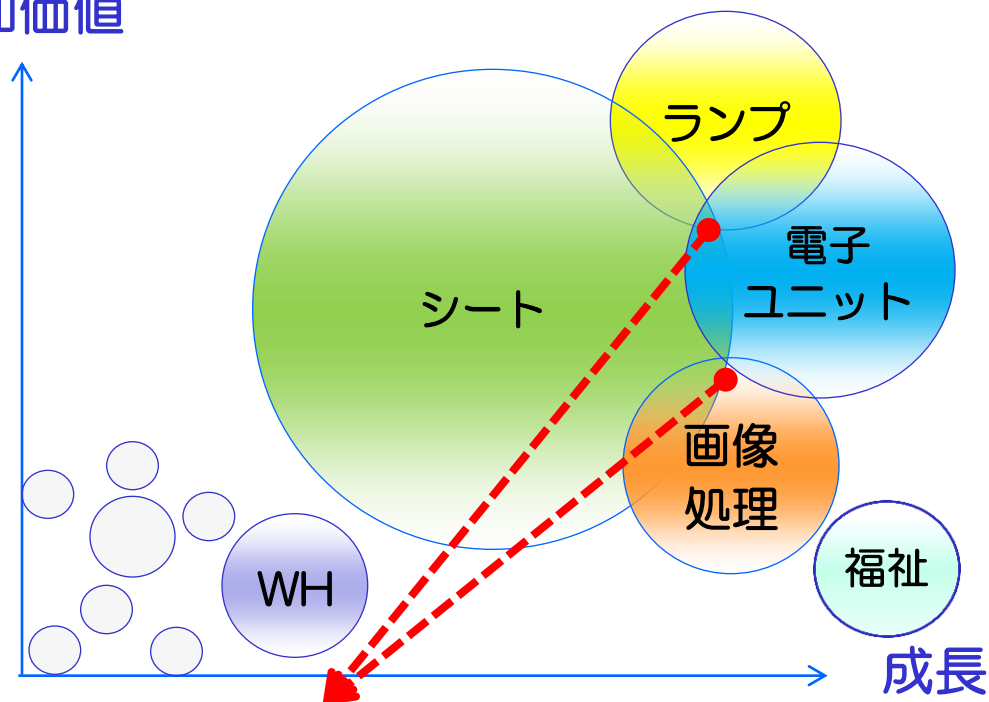
<設立の狙い>

- 各得意先に近い拠点での一貫生産体制の構築
- プレス部品の内製化による
広州今仙⇒武漢今仙輸送費削減
- 武漢今仙の賃借外部倉庫の第二工場引き入れによる固定費削減

・グローバル拠点全体での工程系列の見直しを図る

【事業の選択と集中】

付加価値



開発センター活用

シナジー創出

M&Aやアライアンスの柔軟な検討

- ・ 収益体質強化、将来成長の成長に向けた活動に十分な費用を投資する

■フェーズ3の取り組み

＜フェーズ3 重点展開方針＞

技術革新

国内事業の再構築

グローバル拠点の最適化

人材育成

事業の選択と集中

＜取り組み＞

- ・保有技術を集結し、電子分野で新製品を開発
- ・世界TOP品質の設計・加工技術を構築

- ・国内事業の縮小に対応するよう国内拠点を統廃合する

- ・工程系列を見直しグローバルでの最適供給方法を確立する

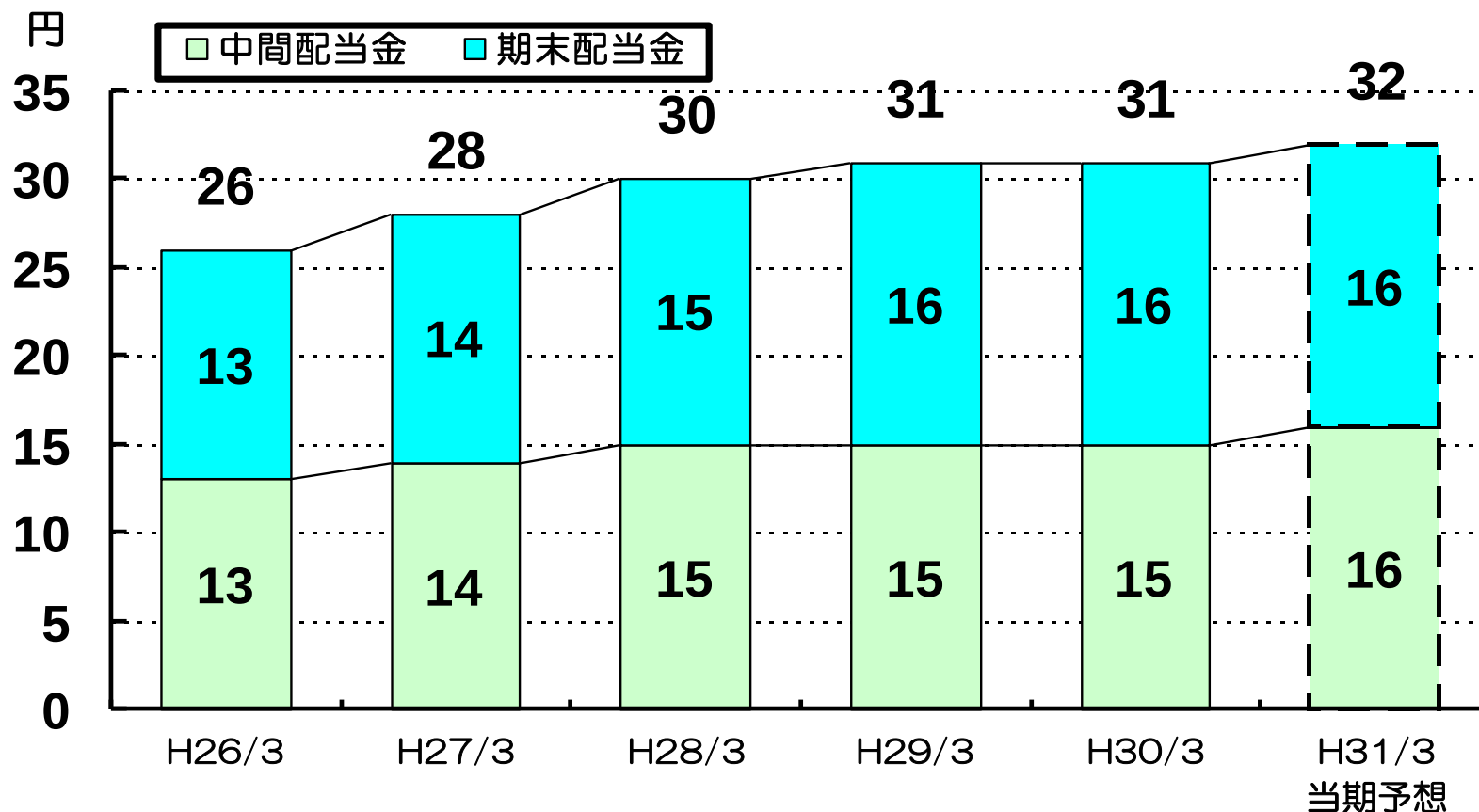
- ・グローバルに活躍できる人材、ローカルスタッフを育成する

- ・事業拡大に向けて経営リソースの投下を拡充する

・5つの重点展開を徹底し、研究開発の強化と収益改善を図る

POINT

前期より1円増配を予定しております

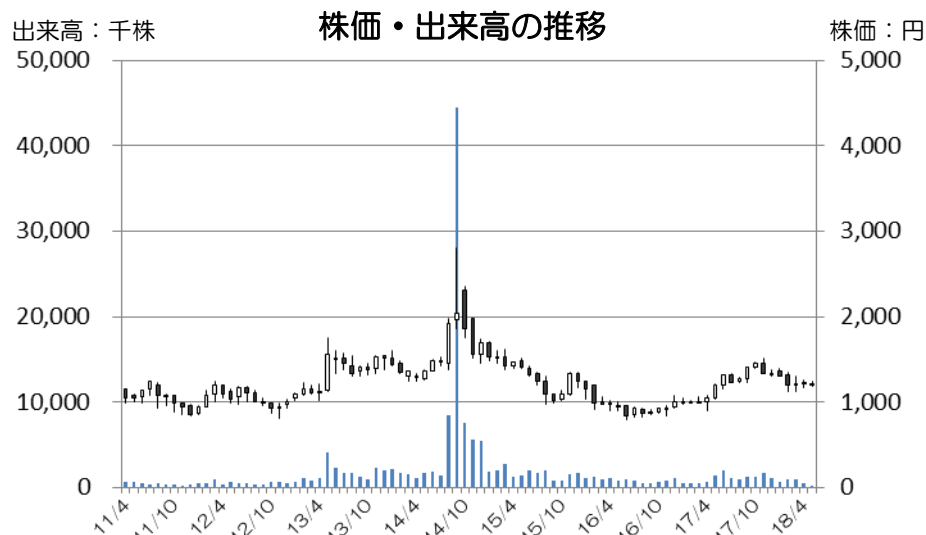


今後のスケジュール

6/19 (火)	株主総会 (名鉄犬山ホテル)
7/20 (金)・21 (土)	名証IRエキスポ (名古屋・吹上ホール)
8/7 (火)	平成31年3月期第1四半期決算発表予定

※そのほか、今仙グループの最新情報をWEBにて配信しております

<http://www.imasen.co.jp>



IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所
グローバル経営事業部 経営企画課
IR担当

TEL 0568-67-1517

<http://www.imasen.co.jp/ir.html>